

## 愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 第3回会議 議事録

日時：平成27年10月15日（木）15:30～17:00

場所：愛知県自治センター 4階 大会議室

### <中西副知事>

副知事の中西でございます。

本日は、「愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」の第3回会議に御出席いただきまして、まことにありがとうございます。会議の開催にあたりまして、一言御挨拶を申し上げます。

前回、7月31日に開催いたしました第2回の会議では、「人口ビジョン」案といたしまして、日本一の産業力をさらに強くし、多くの人を呼び込んでいくこと、加えまして、県民の皆様の結婚・出産・子育ての希望をかなえ、出生率の上昇に結び付けることができましたら、本県の人口は、2020年頃の約750万人をピークとしつつも、2060年時点におきましても700万人程度の人口を確保できるとの見通しをお示ししたところでございます。

そして、そうした展望を実現していくための「総合戦略」の骨子案をお示しし、委員の皆様方には、それぞれ御専門のお立場から、貴重な御意見をいただいたところでございます。

その後、8月から9月にかけて、その骨子案をもとに、市町村との意見交換会やパブリックコメントを実施しまして、広く意見を伺ったところでございます。

この推進会議をはじめ、いただいた様々な御意見、御提案などを踏まえながら、政策の肉付けや数値目標の設定を行いまして、先般、10月5日に、知事を本部長とする県庁内の推進本部におきまして、「総合戦略」案をとりまとめたところでございます。

数値目標につきまして、代表的なものを御紹介させていただきますと、まず、本県が強さを誇ります「製造品出荷額等」につきましては、現状を上回る全国シェア14.5%、そして、1位を継続してまいりたいと考えております。そのほか、「観光消費額」につきましては、現状を4割上回る1兆円への拡大、そして「合計特殊出生率」につきましては、2030年に県民希望出生率1.8の実現、また「健康寿命」は、男女ともに全国1位をめざしてまいりたいといった、愛知ならではの意欲的な目標を掲げさせていただいたところでございます。

「人口ビジョン」と「総合戦略」につきましては、今月末に最終的なとりまとめを行いたいと考えており、この推進会議につきましては、本日を最終回とさせていただく予定でございます。

本日、皆様方には「総合戦略」に対する御意見、御感想はもちろんのことでございますが、こうした戦略は、策定した後、いかに推進していくかが大変大切でございますので、是非、今後の展開に当たっての皆様方の思いや、私どもに対します御要望と

いったことも、お聞かせいただくことをお願い申し上げまして、私からの冒頭の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

### ＜後藤澄江座長＞

皆様、こんにちは。本日が最終回ということで、これまで皆様方の御協力をいただき、今日を迎えられ、本当にありがとうございます。本日も皆様方の御協力のもと進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

副知事の御挨拶にもございましたように、今回は7月末でございまして、「人口ビジョン」につきましては、ほぼ皆様に御確認をいただき、また「総合戦略」につきましては、6つの基本目標を設定して、具体的に取り組む政策の骨子については御了解をいただいたところでございます。そのうえで皆様方からは、御専門の立場から政策等に関する具体的な御意見をいただき、取り入れられるものは、戦略の中に入れて欲しいという御要望を出させていただきましたところ、本日までの間、大変丁寧に戦略の中に入れていただいたと私としては感じております。

そうしたことを踏まえまして、「総合戦略」は、政策に肉付けがされ、また、基本目標と施策ごとに数値目標を入れていただき、概ね出来あがってきているところでございます。

本日は、内容についての御感想のほか、今後どのように取り組んでいくかが大変大事でありますので、そういう点での御助言等もありましたら、各委員からいただけたらと思っております。どうぞよろしくお願いしたいと思います。

それでは議事に入りまして、議題1の「愛知県人口ビジョン」案及び「愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略」案について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局説明)

### ＜後藤澄江座長＞

ありがとうございました。事務局から「人口ビジョン」案、そして「総合戦略」案について説明をいただきました。そのうち、「人口ビジョン」案については、7月の会議から基本的に変更はないということでございました。また、「総合戦略」案については、前回会議での各委員の意見などを踏まえて、肉付けがされ、概ね出来上がってきたということでございます。今のようなことを踏まえまして、感想や御質問等をいただけたらと思えます。

それでは、名簿の順で御発言をいただきたいと思えます。

まずは、有識者の先生方からお話を伺ってまいりたいと思えます。

先生方からは前回、キャッチコピーが必要ということや、キャリア教育における外部人材の育成や活用、また、三遠南信をはじめとした広域連携というような観点から、それぞれ御意見をいただいております。

それでは、内田委員からお願いいたします。

### ＜中京大学 内田俊宏委員＞

前回、愛知県ならではのキャッチコピーがあったほうがいいのかというコメントをしたのですが、それに対しては、今回「人が輝く愛知」というキーワードを強調していただいております、第三次安倍内閣の一億総活躍を目指すという方向性にも合致します。国のほうとしては、まだ一億総活躍の中身がちょっと曖昧なところもありますけれども、地方独自の戦略を打ち出していくという点で、愛知県としては人に着目して、全国民が活躍する中でも、愛知だけはさらに輝くということで、ソフト力を重視した戦略や方向性が明確になったのかなと感じております。

それを含め、全体として、これまでの議論を踏まえながら、方向性、数値目標ともに、かなり妥当な線に落ち着いてきたという印象を持っております。

個別に見ますと、まず「人口ビジョン」のほうですけれども、「3 めざすべき方向と人口の将来展望」というところでも共有されていますように、日本一の産業県という、ものづくりの最先端の集積地という位置づけを将来的にキープしていく方針は特に重要だと思います。「東京一極集中にストップをかける」という目標の下で、一億人の人口を地方で取り合う形になると、ただ単に格差が広がってしまうだけなのですが、愛知県の場合は、製造業という日本経済の成長エンジンである次世代のものづくりの集積の高さで地方にも貢献できると思います。例えばトヨタのように、この地域でマザー工場を持って付加価値の高いものを作ることで、九州や東北に生産拠点を広げています。愛知県から地方へと波及し、地方での雇用を生み出す効果をもたらしています。すなわち、愛知県が他地域から人口を吸引したとしても、愛知で高付加価値化を進めることができれば、それが各地方への波及効果に繋がっていくという考え方ができるわけです。そういう意味ではここはシンプルに、東京一極集中にストップをかける核としての役割を強調することは非常に重要だと思います。

「総合戦略案」については、「基本的な考え方」のところ、ワーク・ライフ・バランスを重視している点は高く評価できると思います。愛知県は豊かな職住環境を実現していますが、雇用環境、ゆとりある住環境、子育て、近居・同居、家族間のネットワークまで含めて、より豊かなライフスタイルを提案できる県であることは首都圏との大きな違いだと思います。どうしても、ものづくり、産業志向というイメージだけですと、企業中心の社会という印象が先行してしましますが、実はそうではないという方向性もここからイメージできると思います。全体のバランスとしても、うまくまとまっているのではないかと感じております。以上です。

### ＜後藤澄江座長＞

ありがとうございました。それでは、白上委員お願いします。

### ＜NPO法人アスクネット 白上昌子委員＞

まずはじめに、資料4の33ページに「コーディネーター」と明記していただきま

した。感謝いたします。教育の分野は学校に任せておけばいいというものではなくて、教員をサポートする人材が必要であり、学校を支える様々なサポートがあるからこそ、新たな方針も有機的に機能していくと思われます。まず記入につきましてありがとうございます。

それから、内田委員からもありましたように、キャッチフレーズ、「東京一極集中にストップをかける」というところ、「人が輝く愛知」を実現していくというところ、「地方創生」というところに関しまして、愛知が元気になると三重県、岐阜県の人口がどんどん吸収されていくのでは何も意味がないと思います。製造業の街、県ということで、ハード面のイメージが強い中で、働く県ではなくて、それとプラス住みやすい、生活しやすい県だということところを、東京圏、関東圏にいかにかPRしていくかということところに焦点を置かない限り、本来期待する人口の流入というのはなかなか難しいかと思われます。女性の関東圏への流出が多いというデータもありましたけれども、魅力的な愛知ならではの闘える部分があるので、東京のまねではなくて、東京にはない、住みやすい、そして働きやすい県だということところを今後実行するにあたって推し進めていただきたいと思われます。

1つの取組事例なのですが、私どもでは、ある愛知県内の自治体と組んで、生活困窮者家庭向けの支援を行っております。例えば子どもの貧困というのも今回掲載されていますけれども、今、非常に多いです。特別な子どもたちではなくて、いつ何時それが自分の家庭で起こるかかわからない。その自治体では修学支援を受けている子どもたちは全体の約一割にもなります。この取組はもともと福祉部が担当ですけれども、今、教育委員会やまちづくりの分野など様々な分野と連携しながら行っています。全ての業務にあたって、この分野はこのセクションですということところで終わってしまったら、多分今回の達成目標は難しいと思われます。やはり達成目標を乗り越えていくというつもりで考えていくのであれば、関連分野といかにか連携を図っていくか。おそらく戦略案の骨子を作られる企画課の方々を中心となって今後図られていくかと思われますけれども、いかにか連携による相乗効果をもたらしていくかが大切かと思われます。われわれNPOは借り物競走とよくいいますけれども、今回の取組もいろいろなところの分野から借りていきながら、知恵を運びながら、そして目の前にある課題解決を図っていくということが、結果的に「人が輝く愛知」であり、東京一極集中にストップをかけていく形につながっていくのではないかと思われます。

KPIに掲げてある経常的な数値目標の達成をすると同時に、各事業担当者がいかにかそこに物語、ストーリーが語れるかということが、本質的な変化、そして本当の意味での輝く愛知になっていくのではないかと思われます。掲げた目標がモノではなく、人だからこそ、ただ単に「数値的に達成できました」で終わってしまったら、多分それは本来の、まち・ひと・しごと創生になっていないと思われます。何のために行うのか、中味が大切ですので、数値目標のための数合わせに終わってしまわないようお願いしたいなということで、最後付け加えさせていただきます。以上です。

## <後藤澄江座長>

ありがとうございました。それでは、戸田委員お願いします。

## <愛知大学 戸田敏行委員>

これまでお伝えしたように、案としてはこの間の意見を反映していただいて、特に付け加えることはございません。特に東三河を厚く書いていただいてありがたいと思っております。たぶん、全国的に見てもこういうふうにかなり現実感を持って多様な事業を書き込める県はそんなにはないのではないかと思います。読んでいるとかなり出来そうな気がしています。そういう意味で愛知の存在を示していただきたいと思えます。そこで実施面が重要なのだということで、先ほど中西副知事からお話でしたが、実施面での感想を申し上げたいと思えます。

1点は地域計画としての進め方です。これもひとつの地域計画と考えると、随分地域計画の考え方が時代とともに変わってきたと思えます。戦後から成長期の地域計画というのはひとつの方法論を示すことで、事業化につながる。それが成長期のパターンだと思えます。それから成熟期になって、繋がりやネットワークを非常に求めるようになったと思えます。それが人口に極端に現れるように縮退期に入った。縮退する構造の中で、どうもネットワーク自身も根拠が揺らぐということが現れているのではないかと思います。それはつまり、個人のレベルで希望が薄れているという感じがするのです。そういうふうにと考えると、地域のビジョンが個に結びつくことが不可欠になるのだらうと思えます。今回の戦略も県民にどう届けるかというところに強い意思があるのではないかと思います。そのために、市町村をはじめ各機関の必需というか、本音の部分とどういうふうにかクロスしていくのか、あるいはフィードバックされるのかということが重要なことだと思えます。

特に「人が輝く」というのは大変素晴らしいキャッチフレーズで、教育という面からもどういうふうにか繋げていったらいいのかということが投げかけられており、出てくるものが多いのではないかと思います。

2点目は、今回の地方創生事業についてです。国の皆様を前に言いにくいですが、国の政策をどう評価するかということがあると思えます。今回の総合戦略案の中では52ページに「地方税財源の充実強化」というところに、制度上の県からの意思が強く表れていると思えます。国はそれなりの難しさがあってやっているわけですが、地方から見てるとやはり唐突に事業が出てくるということもあって、地方創生も創生という意図ですが、ややそう思うところがありました。そういう意味では是非、どう表現していいか分かりませんが、国に楯突くところがあってもいいと思えました。一極集中に対して、中京大都市圏あるいは中部圏の連携が記載されていましたが、是非、連携して楯突いていただきたいと思えます。

それから、税源にも関連するのですが、やはり全体的に見ていくと、日本の大きな流れとしては、縮小、縮退しなければならない部分が出てくることは否めないと思うのです。言葉としてはスマートシュリンクという言い方をしますけれども、なかなか

容易ではない。全部原資がなくなってから縮小というのは敗退で、それはなかなか悲惨なことなのだと思います。創造的な面をもっているときに、どういうふうに縮退面を組み込むのかという、創造的な縮退、これは本計画の範囲外かもしれませんが、そういうことを実施の段階で併せてやっていただけるといいのではないかと思います。

それから補足的に1点ですが、今回の創生で、県庁も元気になってもらいたいと思います。自治体職員の感動意識を最近調べているのですが、市町村職員は市民とのつながりのところから感動が出ています。県は一部しか調べていないのですが、自己裁量が非常に強く出ています。これはプロフェッションを求めている、プロフェッショナルたらんとしていることだと思うのです。そういう意味で、これだけのプロジェクトがどういうふうに県の中で動かしていけるのか。実際に事業を進める体制、これだけ広がりがある事業を、困難な時代の中でどう進めていくのか。自己裁量をもってということが大変重要ではないかと思いました。

#### <後藤澄江座長>

どうもありがとうございました。それでは、次に産業界の方々からということでございます。

前回は、事業承継などの中小企業支援、航空宇宙産業や研究開発などでの広域連携の促進、農林水産業のブランド力強化などについて、御意見をいただいております。

まずは、酒向委員からよろしくお願いします。

#### <愛知県商工会議所連合会 坂東俊幸委員（代理：酒向孝信主任調査役）>

名古屋商工会議所の酒向と申します。本日は委員の坂東が所用のために、私が代理出席しております。まずは、前回坂東の方から発言させていただいた事柄、具体的には中小企業における経営革新であったり、事業承継の部分であったり、あるいは健康長寿産業育成における医療機器についてであったり、リニアをはじめとしたゲートウェイ機能の強化の部分であったり、このあたりを戦略案に取り込んでいただきありがとうございました。また、目標を数値化されたという点については非常に見やすくなってよろしいのではないかと思います。53ページの「(3) 総合戦略の進行管理」というところに記載がありますけれども、目標達成のためにPDCAをいかにして回していくのかということが今後の課題になると思うのですが、実際その現場レベルでどれほど具体的にPDCAを回していくのかが非常に重要だと思います。ただ一方で、本戦略が5年というのは非常に長いスパンですので、計画を推進していく中で今後の景気動向や外部環境の変化によっては、施策とか事業の見直しであったり、あるいは数値目標そのものを見直すという局面もあるかもしれませんが、その場合も、今回のように有識者の方々のいろいろな意見を取り入れながら、関係機関と連携して地域全体で見直しについても取り組んでいくというスタンスは貫いていただきたいと思います。私からは以上です。

### <後藤澄江座長>

はい、ありがとうございました。それでは次に村田委員よろしく申し上げます。

### <中部経済連合会 村田純一委員>

中経連の村田でございます。よろしく申し上げます。今回の戦略を拝見いたしますと、愛知県ならではの総合戦略を描いていただいたということで、事務局の皆様の御尽力に心から敬意を表したいと思っております。また、これまでの会議では、広域連携や観光産業等について多くのコメントをさせていただいて申し訳なかったのですが、すべてについて、スマートに取り込んでいただきまして、恐縮すると同時に深く感謝申し上げます。

戦略の実行に取り組んでいくうえでの期待とエールを手短に3点申し上げます。

1点目は戦略を実行する上での視点です。首都圏に対抗するという言葉がたくさん書かれていたのですが、産業や経済のグローバル化は確実に進んでいます。日本随一の産業県としては、東京を見るのではなく、世界を見るという視点で戦略の実現に取り組んでいただきたいと思っております。様々な取組のレベルや規模感が世界レベルでどうなのだろうか、そういったことを考えることで、愛知県が日本全体をリードし、戦略案の言葉を借りれば「日本の活力を取り戻す核」になれる、そういうふうを考えております。

2点目は、最近の国レベルの動きについてです。一つは知事会見で触れておられた「TPP」です。自動車部品等の関税の引き下げは当地の産業に直接メリットがあるだろうと考えております。一方、農業については、後程、他の委員の方からコメントがあるかもしれませんが、愛知県には花ですとか、野菜ですとか、質も競争力も高い農業がございます。更なる飛躍の機会として前向きに取り組む関係者への支援を期待したいと思います。もう一つは「国家戦略特区」です。52ページに記載をいただいておりますが、愛知県の計画にも他地域が提案した規制緩和を取り込めるという仕組みでございますので、是非他地域のアイデアもうまく取り込みながら戦略の実現に結び付けていただきたいと思っております。

3点目は先ほど、戸田先生からもコメントがございました「地方分権」です。国が主導する地方創生というのもなんか言葉としておかしいなと常々思っておりまして、地方が自ら戦略を考えて自ら実行していくには、最近でこそ下火ではあるものの、やはり地方分権、地方の財源充実が非常に大事だと考えております。ただ、地方分権というのは、特に政権が強いときにはなかなか進まないだろうと思われそうですが、そうした中でこそ、日本の活力を取り戻す核である愛知県がリードして、地方が望む地方分権のあり方を引き続き提起していただきたいと思っております。

### <後藤澄江座長>

ありがとうございました。それでは、村上委員よろしく申し上げます。

### ＜愛知県農業協同組合中央会 村上光男委員＞

まず、前回の意見をいろいろ盛り込んでいただき、ありがとうございます。私からは、二点申し上げたいと思います。

一つは、数値目標でございます。「しごとづくり」ということで、10 ページに「農林水産業県内総生産の全国シェア 3.5%」という目標を立てていただきました。ただ、シェアというのは、分母、分子の関係で決まるものでありますので、理想的には、分子が上がりながらシェアが上がるといいなという気持ちは当然持っております。そういう意味では、県内総生産が維持とか拡大した上で、達成することが望ましいということでありまして、今後は、この数値目標をフォローされると思いますが、その時は、分子の中身、増えたか減ったかについても検討していただければと思います。

もう一つが、TPPでございます。村田委員からも御発言があり、うれしく思っておりますが、先ごろ、TPPが大筋合意されました。農業に関しましては、これから影響が出てくるだろうと思っております。こうした中で、総合戦略の実践におきましては、TPPの影響を吸収していただきまして、目標にあります、「競争力のある農林水産業の強化」に期待したいと思っておりますので、どうぞよろしく願います。

### ＜後藤澄江座長＞

ありがとうございました。次に、市町村の代表の方から御意見を伺いたいと思います。前回は、総合戦略策定後のPDCAサイクルの確立や、条件不利地域における地域資源の活用などについて、御意見をいただいております。それでは、本日、戸田委員は欠席ですので、町村会事務局の梅村委員、よろしく願います。

### ＜愛知県町村会事務局 梅村幹雄委員＞

私からは、まず策定にあたりまして、2回にわたり市町村との意見交換会を開催いただき、市町村から現状や課題を詳細に聞き取りいただき、また、総合戦略の案についても御説明いただいたと聞いておりますので、市町村との意見交換会を丁寧に行っていたことにつきまして、まずお礼を申し上げます。

それから、市長会事務局の戸田委員の意見も含めまして、前回申し上げたことを、今回の戦略の中に反映していただき、そのことにつきましても感謝申し上げたいと思います。内容面につきましては、前回も申し上げましたが、条件不利地域の振興につきまして、きちっと記載していただいておりますので、バランスがとれた戦略案ということで評価したいと思います。今後は、最後の53ページの「戦略の推進にあたって」にございますように、市町村をはじめとしました様々な主体と連携して、それぞれ目標を共有しながら、しっかりと戦略の推進をしていただくとともに、PDCAサイクルによる進行管理の際にも、県で検証された情報を市町村等にもフィードバックしていただきまして、総力をあげて基本目標やKPIの指標を達成していただきますよう、お願いしたいと思います。



その上で、委員の中で申し上げるのが多分私しかいないだろうと思いますので、再三申し上げて恐縮ですが、条件不利地域につきまして、申し上げます。三河山間部とか半島先端部は、2ページの「基本的な考え方」のところで、きちっとその役割につきまして評価していただいておりますが、県土の保全とか、水源の涵養、あるいは、農林水産物の供給ということで、県全体の中で非常に重要な役割を担っているということでございまして、こういった条件不利地域が衰退すれば、県全体のこういった機能も失われていくということになるかと思っております。今年度中に県の振興部で山村振興ビジョンも策定されるということでございしますが、このビジョンとも相まって、しっかり条件不利地域の振興を図っていただくようお願いいたしまして、私からの意見とさせていただきます。

#### <後藤澄江座長>

ありがとうございました。次に、国の地方機関の方々から御意見を伺いたいと思います。各省庁に関わる政策分野について、いただいた御意見のさらなる感想について、御発言をいただきたいと思っております。それでは、東海総合通信局の猪俣委員からよろしくをお願いします。

#### <東海総合通信局 猪俣浩昭委員>

東海総合通信局の猪俣でございます。総合戦略（案）について、ここまでおまとめいただき、ありがとうございます。これまで2回の会議においてICTの利活用については、さまざまな社会活動分野に役立つことをお話しさせていただいたところがあります。結果、総合戦略（案）では、随所にICT利活用について記載していただき、県の御担当には感謝申し上げます。また、こういう形で各委員の御発言をリードしていただいた座長の後藤先生に感謝申し上げます。

ICT関連につきましては、いろいろな箇所に入れていただきました。ICTというと一見取っつきにくい言葉ではありますが、このように身近な分野への活用を、こういう形で見える化していただくことで、具体的な中身になっているのではないかと思います。また、「基本目標6 活力ある地域づくり」の「(3)の持続可能で活力あるまちづくり」で「④ICTの利活用による地域活性化」を新たに項立てしていただき、各地域、分野で直面する課題解決に向け、情報通信ネットワーク等ICTを利活用していただければと思っております。53ページには、「総合戦略の推進」ということで、「国の制度や施策の活用」ということがございますが、私ども総務省といたしましても、様々な支援を予定しており、今後御提案していきたいと存じます。

また、今回、市町村との意見交換会を2回されたということですが、これは素晴らしいことだと思います。現在、各市町村でも総合戦略の策定が進められているところではありますが、県の総合戦略において明確にICT利活用の有効性について記載をいただいたことで、市町村の計画策定に向けた一つの目標や参考になるものができたのではないかと思います。私どもといたしましても、市町村の満足につながるような政

策を一緒になってやっていければと思っておりますので、これをきっかけに、今後とも連携させていただければと思っております。

#### <後藤澄江座長>

ありがとうございました。では、愛知労働局の豊嶋委員、よろしくお願いします。

#### <愛知労働局 豊嶋吉武委員>

愛知労働局の豊嶋でございます。これまで3回大変有意義な会議に出席させていただき、ありがとうございます。私ども労働行政の立場から二点申し上げます。

前回の会議の中でも非正規雇用労働者対策というのが非常に重要だということをお願いしてまいりました。非正規労働者の正規化を進めるということは、所得が増加する、所得が増加すれば結婚がしやすくなる、それに伴って少子化対策になる。こういったことを申し上げたところ、県においては、33ページに非正規雇用労働者対策は非常に重要ということに記載いただきました。ありがとうございます。

もう一点は、本年2月に県と県内6つの経済団体との中で働き方改革に向けた共同宣言を採択いたしました。女性の活躍の部分で、ワーク・ライフ・バランスの推進が非常に重要だということの中で、女性が活躍し、能力を發揮できる社会の実現をめざすためには、「働き方改革」を進めていくことが必要であることを37ページに盛り込んでいただきました。ありがとうございました。

今回の目標につきましては、就業者数あるいは、労働力人口、失業者数、女性の労働力率という非常に高い目標を掲げていただいております。そういった意味でも雇用・労働環境の整備については、私ども労働局といたしましても、県とともにこういった数値目標に向かって努力したいと思っておりますので、今後とも引き続きよろしくお願い申し上げます。

#### <後藤澄江座長>

ありがとうございました。それでは、東海農政局の坂委員、よろしくお願いします。

#### <東海農政局 坂治己委員>

東海農政局の坂でございます。まず始めに、総合戦略案の策定に携わられました事務局の皆様の御尽力に敬意を表したいと思います。

総合戦略案の中では、「今後5年間において特に重視すべき視点」として、「産業を強くし、働く場をつくる」という項目を設けていただき、その中に「マーケットインの視点を持った経営や高い生産性により、競争力のある農林水産業を確立」することが明記されました。さらに数値目標として、「農林水産業（第1次産業）県内総生産の全国シェア3.5%」ということが示されました。愛知県の現状を踏まえて、将来を見据えた数値目標が設定されていると思います。こうした目標を達成していくために、今後、愛知県のリーダーシップのもと、力強い農業生産が展開されることを期待する

ものがございます。

今後、農林水産省といたしましても、政府の重要課題となっております農政改革の重要な柱である、「攻めの農林水産業の実現」に向けて、生産現場の強化、需要フロンティアの拡大、需要と供給とをつなぐバリューチェーンの構築という視点から、各種の施策を展開してまいりたいと考えております。こうした施策も、愛知県の農林水産業・農山漁村の実態に合った形で適切に展開することが重要と考えております。東海農政局としては、愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略を踏まえながら、県や現場としっかりと連携して、適切に施策展開していきたいと考えております。

#### <後藤澄江座長>

ありがとうございました。中部経済産業局の岩田委員、よろしく申し上げます。

#### <中部経済産業局 岩田則子委員>

中部経済産業局の岩田でございます。過去の会議で発言させていただいた、研究開発機能の整備、研究機器の共同利用の推進、県立大学の機能強化、ものづくり現場での女性の活躍の促進についても明記していただきました。中部経済産業局としても感謝しております。

総合戦略案全体の印象でございますが、愛知県の持っているポテンシャルを洗い出して、それを丁寧に高めていくという視点でつくられていることは評価できる点です。また、産業首都という言葉にも表れていますが、日本、あるいは世界・アジアの中で愛知県が期待される役割も踏まえた案になっていると思えました。

数値目標につきましても、分かりやすく意欲的なものを出していただいたので、これから実行していくに当たって、推進力のある目標設定かなと思っております。実行段階ではPDCAを回していくと思っておりますが、これまで御発言になった国の機関の皆様と同じように、国の施策を是非活用いただきたいと思っております。国の施策は全国一律と考えられているかと思っておりますが、それを地元カスタマイズして実施していくのが地方支分局の役割だと思っておりますので、これまで以上に愛知県と連携をとりながら、場合によっては霞ヶ関に要求したり、役割分担して効果的に施策を展開していきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

#### <後藤澄江座長>

ありがとうございました。続いては、中部運輸局の白木委員、よろしく申し上げます。

#### <中部運輸局 白木広治委員>

中部運輸局の白木でございます。戦略案では、国土交通省、観光庁の進めているものを幅広く記入していただいて、非常にありがたく思っております。特に「基本目標2 魅力づくり」の「(2) 広域観光の推進」では、中部運輸局が進めています「昇龍

道プロジェクト」を明記していただいております。非常にありがたく思っております。また、全国的に進められているコンパクト・プラス・ネットワークもしっかりと記入していただいておりますし、東三河等の山間地区のバス路線等の足の確保も記入していただいております。非常にありがたく思っております。

中部運輸局としましても、他の地方機関と同様に県と歩調を合わせて、いろいろな形で協力して、実現に向けて頑張っていきたいと思っております。また、推進に際しては、事業をひとつひとつ進めるのではなくて、パッケージで進めていくことも大事かと思っておりますので、その辺もまた御相談させていただければと思っております。

#### <後藤澄江座長>

ありがとうございました。それでは、次に教育機関の方から御意見をいただきたいと思っております。前回、大学の研究施設の活用を始め、産学官連携などについて御意見をいただきました。今回は市川委員の代理として遠藤様に御出席いただいておりますが、御意見ありましたらよろしく願いいたします。

#### <愛知学長懇話会事務局 市川真康委員（代理：遠藤典子課長補佐）>

前回、市川から発言させていただきました、大学の資源を生かした地域連携の促進について、反映していただきありがとうございます。また、産官学連携もしっかりと盛り込んでいただきありがとうございます。

大学につきましては、「基本目標3」の「人の流れづくり」に関連すると思っておりますが、「人が輝く愛知」というキャッチフレーズの「人」の部分を担当しますので、大変大事な役割を果たさなくてはならないと思っております。愛知県とも連携しながら、基本目標の実現に向けて、取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

#### <後藤澄江座長>

それでは、次に金融機関の方から御意見をいただきたいと思っております。前回、中小企業の振興、海外展開における金融機関の活用について御意見を賜りました。野呂委員お願いいたします。

#### <名古屋銀行協会 野呂芳弘委員>

名古屋銀行協会の野呂でございます。これまで3回、有意義な会議に参加させていただき、大変ありがとうございました。事務局から示された総合戦略案について、6つの基本目標ごとに数値目標が示されており、さらにそれを実現するための具体的な施策・事業とKPIを設定されています。しかも意欲的な目標になっていますので、今後、施策を展開していく上で、目指す方向が具体的になったと思っておりますし、毎年度の進捗状況の検証において、達成度を数値で測定できるので、県民の方に非常に分かりやすいと思っております。

また、前回の会議でお願いしました地域金融機関との連携について、施策内容の中

に取り入れていただきありがとうございました。全体としてバランスの取れた立派な戦略になっていると考えております。前回会議でも申し上げましたが、施策を遂行する上で金融機関がお手伝いできることとして、中小企業の創業、事業承継、海外展開の支援はもちろんのことですが、施策にも挙げられておりますPFIの導入支援、プロフェッショナル人材の発掘など、金融機関のコンサルタント的な役割も含めて、多くあると思っております。必要な場面で個別の金融機関とうまく連携していただいて、活用していただければと思っております。

#### <後藤澄江座長>

ありがとうございます。それでは次に労働団体の方からということで、前回、非正規雇用の労働者対策の問題、介護離職をなくそうというような御指摘があったかと思えます。連合の梅田委員、よろしく申し上げます。

#### <日本労働組合総連合会愛知県連合会 梅田佳宏委員>

連合愛知の梅田でございます。前回の私の意見を今回の案に反映いただき、ありがとうございます。雇用の創出・安定、介護、連携などしっかり入っていると思いますので、大変うれしく思っているところでございます。しかしながら、一点、37ページの「(4) ワーク・ライフ・バランスの推進」の中に「仕事と育児・介護等を両立でき、多様な働き方を選択できる職場環境の整備促進に向け」とありますが、これは私たち労使がしっかりとやっていかなければならないと思っておりますので、そこをさらにフォローできるように社会環境の整備もお願いできると大変うれしく思っておりますので、ここについてよろしくお願ひしたいと思っております。まだまだ、中小になると、自己では対応できないところがございまして、その点について、またよろしくお願ひしたいと思っております。

今回、様々な目標値が設定されて進めていくわけですが、実際進めていくには、企業、それから愛知県の生活者、そこが実際に動いていくと思っております。やはり、この動きが活発となるような仕組みづくりが一番大切だと思っております。ぜひとも今後実効性のある具体的な取組をさらに展開していただければ、この目標に向かって進んでいくのではないかなと思っておりますので、特に進行管理には重点を置きながらフォローをしていかなければならないと思っております。

53ページの「総合戦略の推進にあたって」の国の制度のところ「2060年に1億人程度の人口を維持する」とあり、これがスタートで入ったところだと思っております。この目標値を見れば、5年ではなくて、2020年以降の目標値もあつたりしますので、きつとこの5年だけではなく、今後この政策というのは、愛知県の骨となる一筋の政策となると思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。連合は国の総合戦略の策定にも入っておりまして、その会議の情報をもらったところ、全国の人口ビジョンを集めてみると、人口が2億人になっていると。やはりどこの地域も流出はせず、流入、流入と、そこに人を集めるということで、実際にはマッチしていかないなと思っております。

まずはこれで発進しながら、いろいろなところを見ながら進めていっていただきたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

#### <後藤澄江座長>

どうもありがとうございました。それでは最後になりましたが、メディアの方からということで、前回、多文化共生の推進や外国人の受け入れというような観点での御意見をいただきました井上委員、よろしくお願ひいたします。

#### <中日新聞社 井上純委員>

もともと、この「人口ビジョン」と「総合戦略」は、政府が旗を振って始まったということであり、本来、地方にはそれぞれ事情や考えがある中で、国の方針で一斉にやるのはいかなものかと言う声もあるとは思ひます。しかし、それを奇貨としてこれだけ中身があるものを作れた、そこが大事なのだろうということだと思ひます。

一斉に動き出した結果、今、各地で同じような戦略が出てくると、人口が2億人になるというような話もあり、どこも横並びになってしまうというような批判がある中で、愛知県につきましては、皆様の努力の成果だと思ひますが、愛知県ならではの、愛知の特徴がうまく生かされたものが出来ていると思ひます。

今後は、それをいかに実現していくかになるろうかと思ひます。東京一極集中を解消する、つまり人口問題がスタートになると思ひますが、愛知県の人口流入のトレンドを継続することに傾くと、周辺の県から人をもってきてしまうということにもなりかねないと思ひます。ここは、もっと広域で、中部圏というような見方で考えれば、この先、色々やっていきようがあると思ひます。「総合戦略」の53ページに「中部圏といたつた広域エリアが一体となつて」という記載がありますが、近隣の県と連携して、全体として進めていければよいのではないかと思ひます。

また、様々な課題がある中で、政策を実行していくにはやはり財源、お金を投じなければ進んでいかな話がいっぱいあると思ひます。いくら愛知県といえ、財源は何でもかんでもというわけではないと思ひます。

その中で、地方分権改革を推進するということが掲げられております。もちろん地方分権を進め、地方が使える財源を増やしていくことも大事だと思ひますが、まずは、お金がなくても知恵を使って進めていけることをどんどんやっていく、例えば、特区をはじめ、規制を改革することによって一気に進んでいくものもあるのではないかと思ひます。お金も大事ですけれども、せつかくいいプランがまとまりそうですので、知恵を使ってうまく進めていただければと思ひます。

#### <後藤澄江座長>

ありがとうございました。皆様から、一通り意見をお伺ひしました。皆様の協力で、予定通り進行してきましたが、もし、最後に発言がございましたら、挙手をお願ひしたいと思ひますが、よろしかったでしょうか。皆様、御意見賜つたということで、ど

うもありがとうございました。本日は、委員の皆様からとても心強い御意見、御感想をいただいたと思います。この会議、思い出してみますと、4月に入りました時に、地方創生、まち・ひと・しごとというものを作っていくためには、やはり一つの機関、団体だけではできないことなので、いくつかの輪ができていって、そして、その輪が重なっていって愛知県全体に広がっていけばいいというような思いを述べたことを思い出します。3回重ねまして、少なくともここの委員の皆様のところには輪ができたのかなと3回を踏まえて思いました。この輪が、また皆様がそれぞれのところで、輪を重ねていっていただければいいのかなと思っております。

それで、御評価の方は、だいたい愛知県らしい特徴が出たということと、愛知県の元々持っている特性なのですけれども、この計画自体もバランスがとれているというような御評価が強かったかなと思います。いずれにしましても、この間、県庁の職員の皆様が頑張っていて、私どもの発言を丁寧に拾って入れていただいたというのが、委員の皆様の実感にもつながったのではないかと思います。その点は、前回無理なお願いを最後にしたのを叶えてくださいます、私の方からもお礼を申し上げたいと思います。

そうはいいまして、先ほどの御発言にもありましたとおり、今回掲げている数値を達成するというのは、かなり大変なことと感じております。ただ、愛知県は元々製造業が強いということですので、それを維持していくということは愛知県らしさを維持する第一に、大切なことだと思います。それに加えて、今回、これまで愛知県が第一に掲げてこなかった観光や農業にもかなり積極的な数値を打ち出されているなと思えました。これによって、産業、人々の雇用の場、そして所得を確保していくということで、そのことによって人口も維持していくことでもありますので、愛知県という街がこれからも繁栄を続けるためには、改めてそういうことを継続していくことが大事だと思います。

ただ、先ほどの意見にもございましたけれども、やはり県民の方々がこのことを納得するということが、県民の方々にも輪を広げていっていただくということが、NPOの方々もそうなのですが、このことを実現していくうえで不可欠なことです。行政の部分、企業の部分、そして県民・市民の部分というのも非常に大事で、そういう意味で「人が輝く」ということを入れたことで、このことがそういう市民・県民へのメッセージになっているかなと思います。

それで改めて考えてみますと、私たちが生活ということを見ると、命と暮らしと生きがいがよく言われることがありますけれども、命という意味では、県としては2060年になっても700万人の県民の命をここで支えるということを示しているわけでありまして、さらには、今回、健康寿命という言葉も打ち出しまして、長寿化する中で単に寿命が延びるというのではなくて、最後まで輝いて健康に暮らすような、そういうことにもきちっと保障していくのだよ、命を単なる人口の量だけではなく、そこに暮らす命の質にも大変こだわってやっていくのだよということを数値でも出していただけたかなと思います。

それで暮らしということ言えば、先ほどから言っていますように、そうはいっても所得とか、働く場とかが非常に大事でございます。そういうことでも魅力的なところを打ち出していただいています。ジェンダーの話もございましたように、きめ細かく男性に向けて、女性に向けての暮らしということの重要と思うものは多少違いますので、そういうところも丁寧に女性、男性に向けてどういう暮らしが、これから実現できるのだということも発信していただけると期待しております。

それから、生きがいということは中々数値化できないので、今回の数値には生きがいというものがどれに相当するかは直接示してはいません。けれども、これは内田委員も言っていたと思うのですけれども、やはり、希望とか生きがいということが非常に大事です。単に数値だけを達成することでは、生きがい、希望ということは見えないと思いますので、これをどうやってきちっと見せていくかということは、これからの工夫次第とっておりました。

いずれにしても、愛知県の今回の計画、手前味噌かもしれませんが、皆さんもそうですが、私も結構実現できるのではないかという現実感を持って終えることができる計画になったことは大変うれしいことだと思いますので、今後とも皆さんと共に見守ってまいりたいと思っております。本当に皆様御協力、丁寧な対応ありがとうございました。本日、最後の会議となりますので、事務局には是非本日の意見を踏まえて戦略を策定・推進していただくことをお願いしまして、本日の会議を終了させていただきたいと思っております。それでは、事務局の方に進行をお返しします。どうもありがとうございました。

### <中西副知事>

委員の皆様方には、本日は、大変貴重な御意見をいただくとともに、今後の推進にあたりましての重要な視点などをいただきました。まことにありがとうございました。

4月にこの会議を立ち上げて以来、計3回にわたりまして、貴重な御意見・御提言をいただきました座長の後藤先生をはじめ、委員の皆様方には改めて感謝を申し上げます。

現在、全国の都道府県、市町村におきまして、「地方創生」に関する「人口ビジョン」と「総合戦略」の策定作業が進められているところでありますが、「地方創生」と一言で言いましても、やはりその地域、地域で置かれた状況を踏まえまして、それぞれ異なる「地方創生」があるのではないだろうかと考えているところでございます。

本県の場合は、何と言っても、モノづくりを中心とした日本一の産業県でございます。知事もかねがね、この強い産業力をさらに強くし、人を呼び込み、また、安心して子どもを産み、育てる社会・環境をつくっていく、そうした好循環をつなげることによって、この地域がさらに活性化していくということを申してございまして、そうしたことを具体的に「総合戦略」の中に書き込んだところでございます。

そして、こうした地域づくりを担うのは、やはり「人」でございまして、誰もが社会の担い手として希望を持って活躍していく「人が輝く愛知」をめざしてまいりたい



と考えております。

愛知県も高齢者の増加、生産年齢人口の減少が見込まれ、そして 2020 年頃には人口のピークを迎えるだろうと考えておりますが、こうした取組によりまして、「東京一極集中にストップをかけ、日本の活力を取り戻す核となる地域」をめざしてまいりたいと考えております。

「人口ビジョン」と「総合戦略」につきましては、今後、10月下旬に開催いたします、知事を本部長とする推進本部におきまして、最終的なとりまとめを行っていくこととしておりますが、本日いただきました御意見につきましては、しっかり受け止めて、戦略の策定、推進を図ってまいりたいと考えております。

最後に、皆様方には、是非とも引き続きお力添えをお願い申し上げまして、閉会の挨拶とさせていただきます。本日はまことにありがとうございました。

以上